

# 2022年度 1Q決算

## 投資家様向け説明資料

2022年7月26日

オムロン株式会社

# 発表のポイント

## ■ 2022年度 1Q実績

- ・1Q実績は上海ロックダウンの影響を受け、減収・減益となった。
- ・制御機器事業は、上海の主力生産工場が4月に稼働停止、5月も部分的な稼働に留まったことで、売上・利益ともに低調に推移。
- ・6月中旬以降は正常化しリカバリが加速。好調な受注を背景に、業績は前年を超える水準まで大幅に回復。

## ■ 2022年度 通期見通し

- ・2Q以降の見通しを精査。上海ロックダウンの影響のリカバリは十分可能であり、通期業績目標は堅持する。
- ・事業環境は、グループ全体では総じて好調。制御機器事業は、好調な受注が2Q以降も継続する見通し。
- ・売上成長のカギとなる供給力は、2Q以降も着実に強化を進めていく。

## ■ 株主還元

- ・今期200億円の自己株式の取得枠を設定する。
- ・配当は期初計画に基づき、前年から6円増配の98円を計画。

# 目次

- 1. 2022年度 1Q決算** …… **P.3~9**
- 2. 2022年度 通期見通し** …… **P.10~16**
- 3. 株主還元** …… **P.17~21**

# 1. 2022年度 1Q決算

## 2022年度 1Q実績

## 上海ロックダウンの影響を受け、1Qは減収・減益

	2021年度 1Q実績	2022年度 1Q実績	前年 同期比
売上高	1,882	<b>1,844</b>	<b>△2.0%</b>
売上総利益 (売上総利益率)	874 (46.4%)	<b>804</b> <b>(43.6%)</b>	△7.9% <b>(△2.8P)</b>
営業利益 (営業利益率)	258 (13.7%)	<b>119</b> <b>(6.5%)</b>	<b>△53.8%</b> (△7.3P)
当期純利益	202	<b>80</b>	△60.5%
米ドル 平均レート (円)	109.8	126.5	+16.7
ユーロ 平均レート (円)	131.7	136.8	+5.1
人民元 平均レート (円)	17.0	19.3	+2.4

(億円)

## セグメント別 売上高

上海ロックダウンの影響を受け、制御機器事業、ヘルスケア事業は減収となった。  
一方で電子部品事業は、需要を的確に捉え大幅な増収

(億円)

	2021年度 1Q実績	2022年度 1Q実績	前年 同期比
制御機器事業 (I A B)	1,076	1,010	△6.1%
ヘルスケア事業 (H C B)	348	341	△2.0%
社会システム事業 (S S B)	159	157	△1.4%
電子部品事業 (D M B)	291	332	+14.0%
本社他 (消去調整含む)	8	5	△44.0%
合計	1,882	1,844	△2.0%

## セグメント別 営業利益

上海ロックダウンの影響を大きく受けた制御機器事業とヘルスケア事業が減益となった。  
電子部品事業は売上成長と価格適正化の効果が表出し、大幅な増益

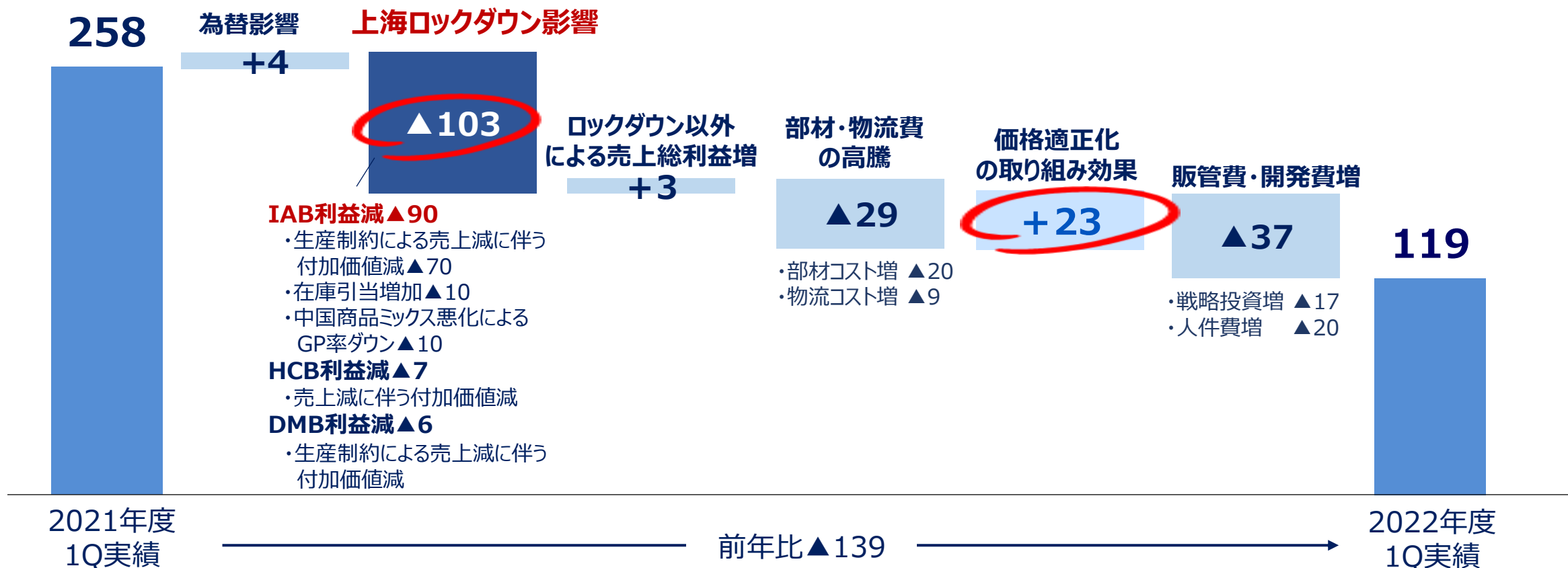
(億円)

	2021年度 1Q実績	2022年度 1Q実績	前年 同期比
制御機器事業 (I A B)	227 (21.1%)	118 (11.6%)	△110 (△9.5P)
ヘルスケア事業 (H C B)	64 (18.3%)	41 (12.1%)	△22 (△6.1P)
社会システム事業 (S S B)	△17 —	△12 —	+5 —
電子部品事業 (D M B)	25 (8.5%)	38 (11.5%)	+13 (+3.0P)
本社他 (消去調整含む)	△40	△66	△26
合計	258 (13.7%)	119 (6.5%)	△139 (△7.3P)

## 1Q 営業利益増減（前期との比較）

上海ロックダウンにより、1Qで▲103億円の営業利益減が生じた。  
部材・物流費の高騰の影響を、価格適正化の取り組みにより最小化

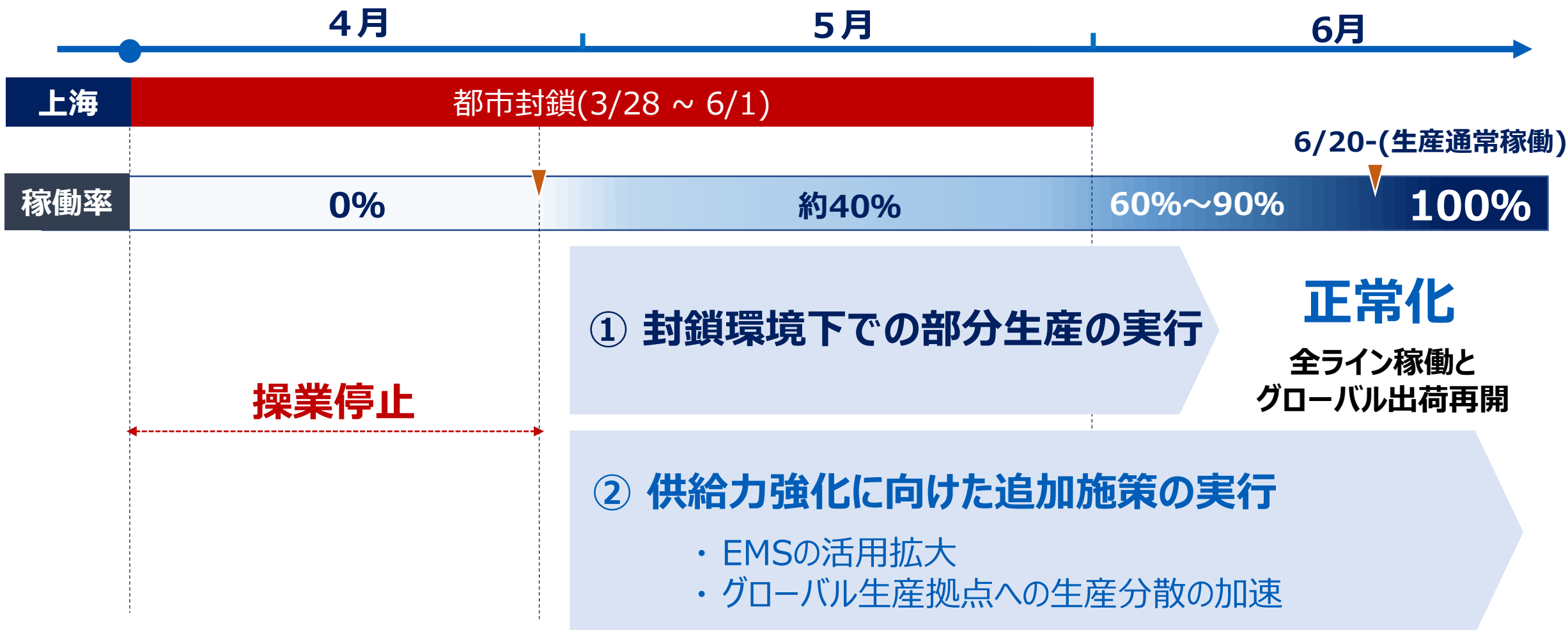
(億円)





## 制御機器事業（IAB） 上海ロックダウン下における変化対応力の強化

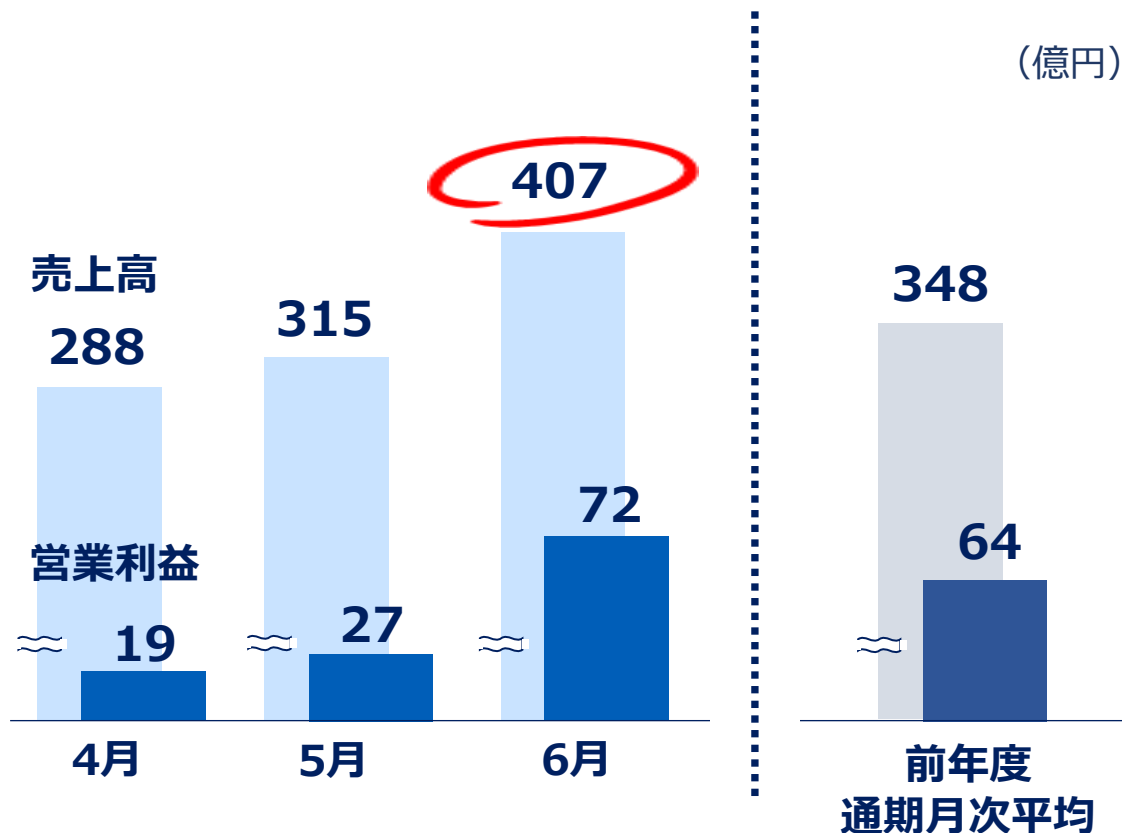
4月度は工場全体が操業停止。5月度は封鎖環境下での部分生産を実行。  
6月度は早期の再稼働にむけたアクションと、2Q以降の供給力強化への打ち手を実行



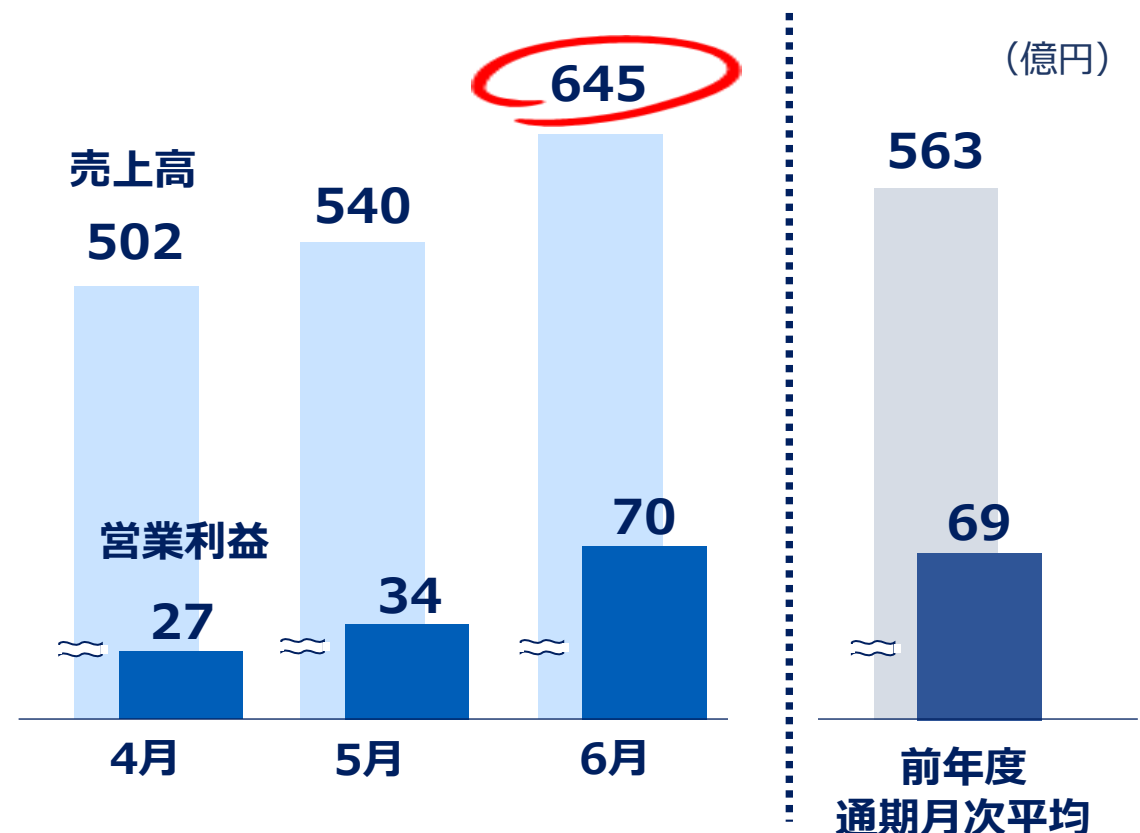
## 1Q 月次業績推移（制御機器事業・全社）

上海ロックダウンの解除に伴い、制御機器事業の業績水準は大幅に回復。  
全社業績も、6月度は過去最高業績となった前年水準まで回復

IAB 1Q期間 月次業績推移



全社 1Q期間 月次業績推移（SSB除く）



## 2. 2022年度 通期見通し

## セグメント別 注力事業の環境認識

## 制御機器事業がアドレスする成長領域の需要は旺盛

制御機器事業  
(IAB)

**デジタル**：半導体全体では需要の濃淡があるものの、次世代半導体などの投資は好調継続。  
**環境モビリティ**：脱炭素等の中長期トレンドによりEV関連投資堅調継続。二次電池投資は下期拡大。  
**食品・日用品**：人件費高騰に備えた自動化投資堅調。一方でエリア間の投資環境に不透明感あり。  
**医療**：新興国中心に人口増加や疫病率上昇による医薬品服薬量が拡大し、安定的な投資が継続。  
**物流**：物流大手の大型倉庫投資が引き続き堅調。一方でインフレ影響による物流コスト増が重し。

ヘルスケア事業  
(HCB)

**循環器**：インフレが個人消費に影響。血圧計需要の拡大ペースは一時的に鈍化。  
**呼吸器**：ネブライザ普及率の拡大に加え、行動制限の緩和による通院増により需要拡大。  
**遠隔診療**：欧米を中心に需要は引き続き拡大傾向。

社会システム事業  
(SSB)

**エネルギー**：分散型電源の拡大や省エネ促進に向けた補助金の継続により需要堅調。  
**マネジメント・サービス**：政府によるアナログ規制の見直しにより、IT活用による点検の促進が拡大。

電子部品事業  
(DMB)

**DC(直流)機器**：機器の直流化や高容量化需要は好調継続。  
**高周波機器**：半導体検査装置などの需要好調。

## 2022年度 通期見通し

1Qの上海ロックダウンの影響はリカバリーできる見通し。  
通期見通しは期初目標を堅持する

(億円)

	2021年度 実績	2022年度 計画	前年度比
売上高	7,629	<b>8,500</b>	+11.4%
売上総利益 (売上総利益率)	3,468 (45.5%)	<b>3,875</b> <b>(45.6%)</b>	+11.7% (+0.1P)
営業利益 (営業利益率)	893 (11.7%)	<b>930</b> <b>(10.9%)</b>	+4.1% (△0.8P)
当期純利益	614	<b>630</b>	+2.6%
米ドル 平均レート (円)	112.1	121.0	+8.9
ユーロ 平均レート (円)	130.5	133.0	+2.5
人民元 平均レート (円)	17.4	19.0	+1.6

## セグメント別 通期見通し

## セグメント別の売上・営業利益見通しも期初目標を堅持する

(億円)

	売上高			営業利益		
	2021年度 実績	2022年度 計画	前年度比	2021年度 実績	2022年度 計画	前年度比
制御機器事業 (IAB)	4,181	4,830	+15.5%	763 (18.2%)	900 (18.6%)	+18.0% (+0.4P)
ヘルスケア事業 (HCB)	1,329	1,540	+15.9%	185 (14.0%)	200 (13.0%)	+7.9% (△1.0P)
社会システム事業 (SSB)	877	920	+4.9%	65 (7.4%)	65 (7.1%)	+0.0% (△0.3P)
電子部品事業 (DMB)	1,210	1,280	+5.8%	101 (8.3%)	105 (8.2%)	+4.1% (△0.1P)
本社他 (消去調整含む)	33	30	△9.1%	△221	△300	-
業績変動リスク		△100	-		△40	-
合計	7,629	8,500	+11.4%	893 (11.7%)	930 (10.9%)	+4.1% (△0.8P)

\*制御機器事業の一部商品を電子部品事業に組み替えて表示しています。

## 制御機器事業事業（IAB） 2Q以降の成長加速

i-Automation!への顧客ニーズは強く、需要は堅調に推移。  
前年からの継続的な取り組みにより、供給力は向上。2Q以降、高い売上成長の見通し

### 2Q以降の売上成長の見通し

1

#### 受注見通し

好調継続。アドレスする成長領域での設備投資は堅調。  
**i-Automation!への顧客ニーズは強く、下期・来期への受注も進む**

2

#### 生産能力

上海ロックダウンの解除により稼働率が向上。  
**EMS活用拡大や、並行生産の取り組みにより生産能力が強化**

3

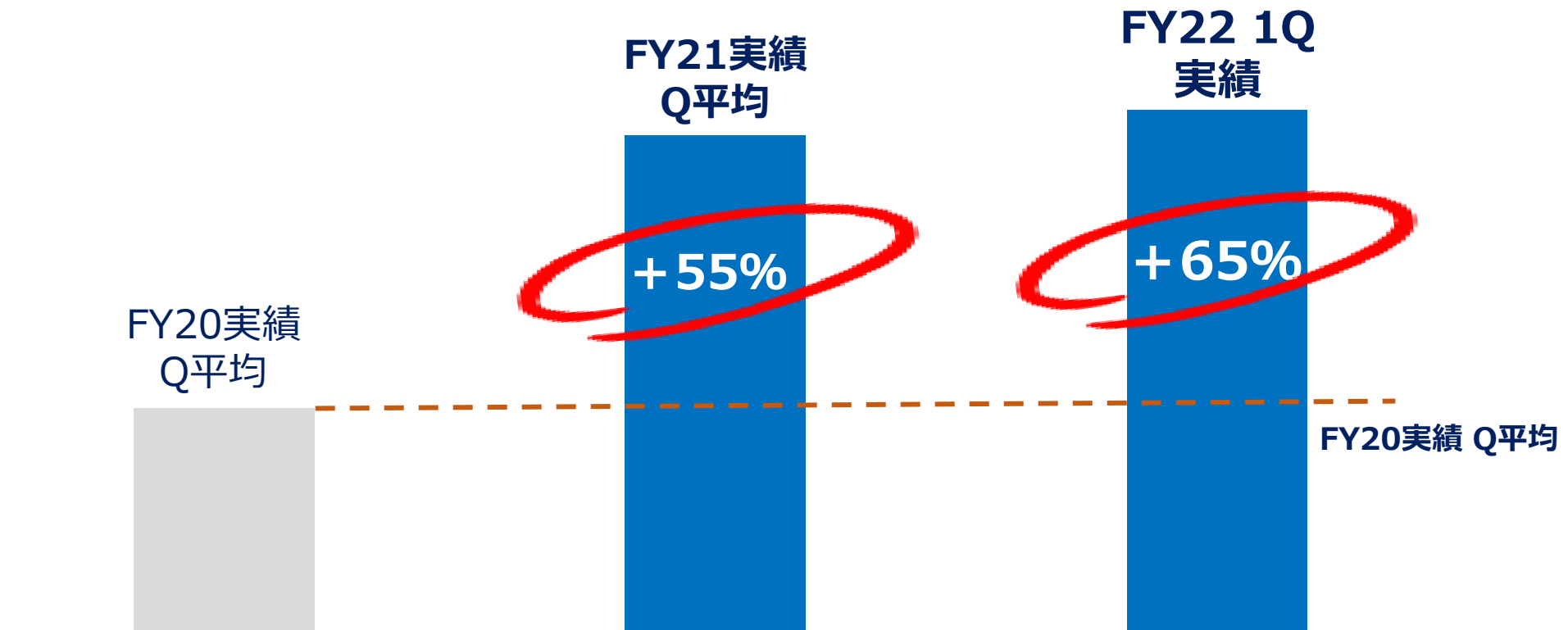
#### 調達

調達環境に大きな変化はないものの、**前期の設計変更等の効果が表出。**  
**加えて、設計変更および調達ルートを拡大し、調達力を強化**

## 制御機器事業（IAB） 受注推移（FY20～FY22 1Q）

2022年度1Qの受注額は、20年度Q平均を大きく超える高い水準が継続。  
受注残の早期解消に向けたアクションを継続

## 受注額の推移（FY20～FY22）



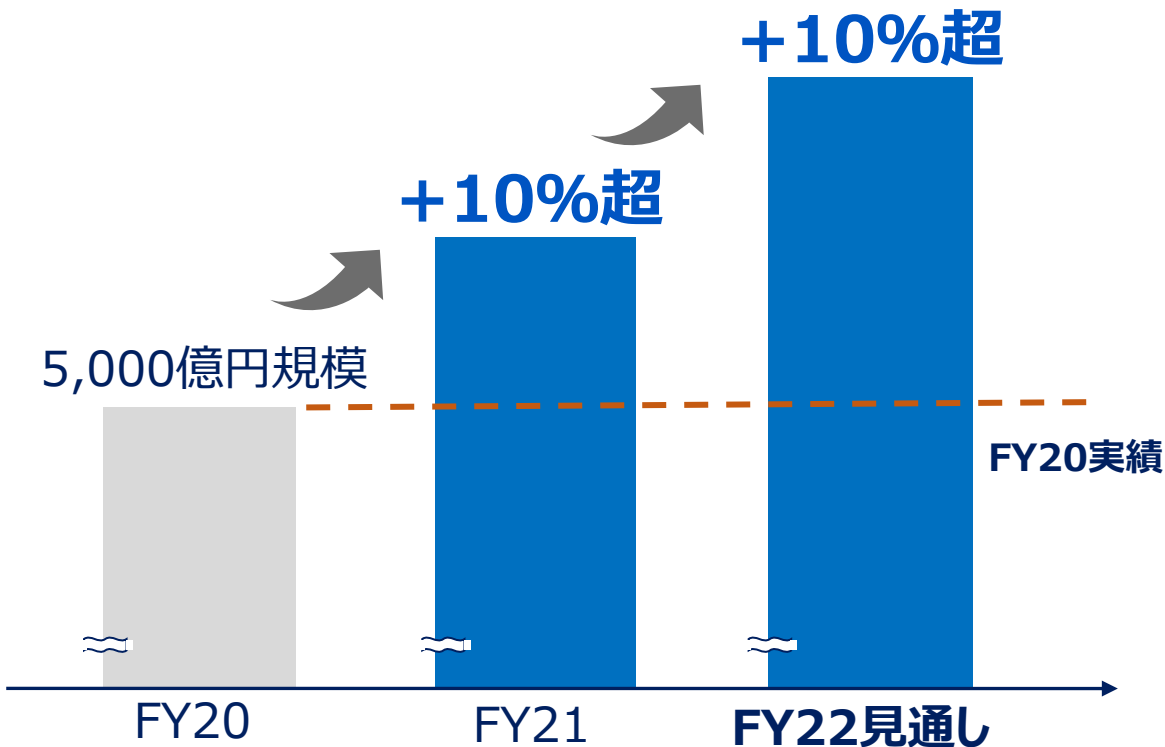


## 制御機器事業（IAB） 供給力の強化

調達力と生産の柔軟性、そして地政学リスク等への対応力を備えた生産体制を構築していく

## 生産能力の強化

FY20比; +20%超の増強



## 中長期的な供給力強化の取り組み

1

部材調達力・需要変動への耐性強化

EMSとの戦略的パートナーシップの拡大

2

ロックダウン・サプライチェーン分断への対応力強化

“消費地生産”の加速

## 3. 株主還元

## SF 1st Stage キャッシュアロケーションポリシー

**中長期視点で新たな価値を創造するための成長投資を優先し、  
その上で、安定的・継続的な株主還元を実行する**

- ①長期ビジョンの実現による企業価値の最大化を目指し、**中長期視点で新たな価値を創造するための投資を優先します**。SF 1st Stageにおいては、社会的課題の解決やソーシャルニーズ創造のための人財や研究開発などへの投資、増産やDXなどの設備投資、M&A & A（買収・合併・提携）などの成長投資に加えて、脱炭素・環境負荷低減やバリューチェーンにおける人権尊重などのサステナビリティへの取り組みに対する投資を優先します。**その上で、安定的・継続的な株主還元を実行していきます**。
- ②これら価値創造のための**投資や株主還元の原資は内部留保や持続的に創出する営業キャッシュフローを基本とし、必要に応じて適切な資金調達手段を講じて充当します**。なお、金融情勢によらず資金調達を可能とするため、引き続き財務健全性の維持に努めます。

## SF 1st Stage 株主還元方針

**安定的、継続的な株主還元に努める。  
余剰資金については、機動的な自己株式の買入れを実行する**

- ① 中長期視点での価値創造に必要な投資を優先した上で、毎年の配当金については、「株主資本配当率(DOE) 3%程度」を基準とします。そのうえで、過去の配当実績も勘案して、安定的、継続的な株主還元に努めます。
- ② 上記の投資と利益配分を実施したうえで、さらに長期にわたり留保された**余剰資金については、機動的に自己株式の買入れ**などを行い、株主の皆さまに還元していきます。

## 自己株式の取得

現在および期末のキャッシュポジション、投資計画、  
株式市場の環境等を総合的に勘案し、自己株式200億円の取得枠を設定

### 【自己株式の取得枠の詳細】

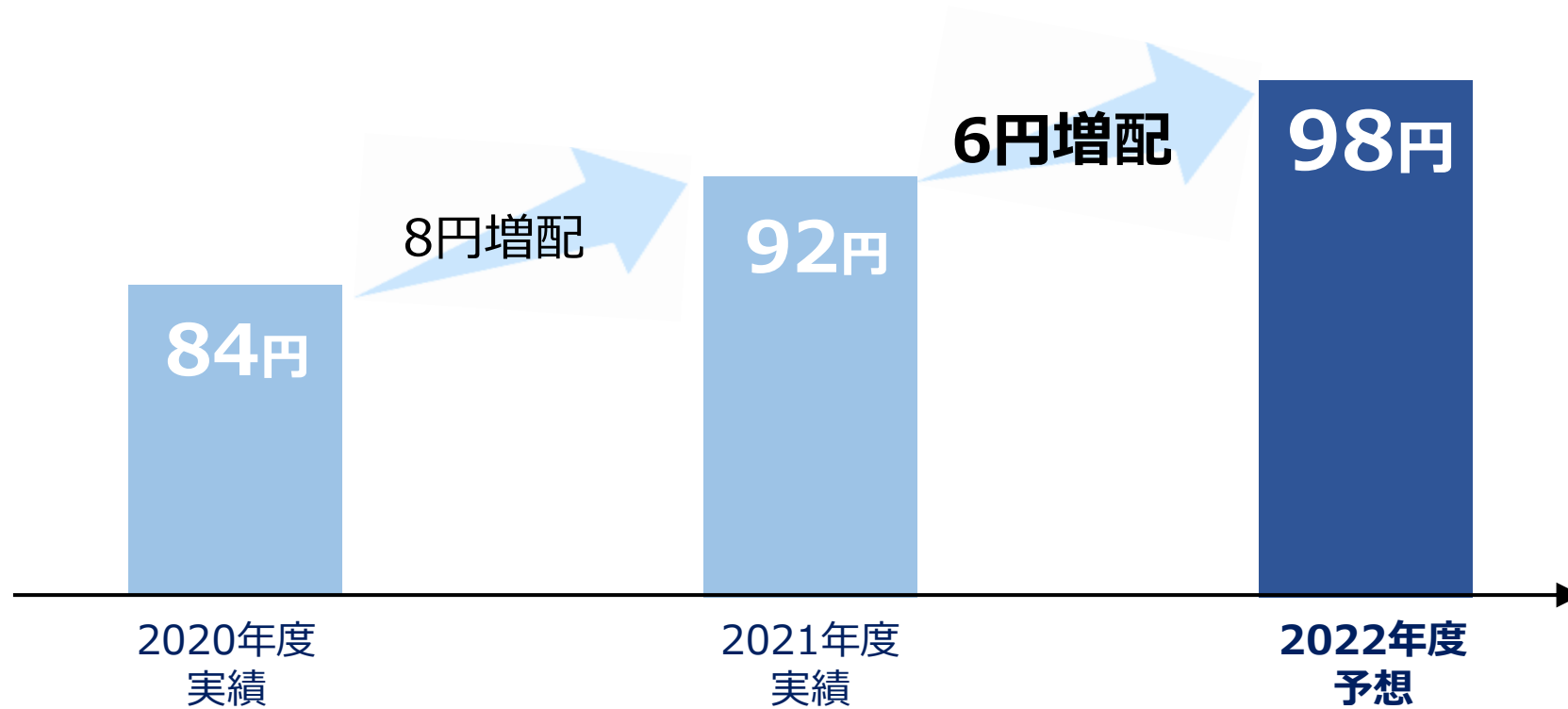
**金額** : 200億円（上限）

**株式数** : 330万株（上限）

**取得期間** : 2022年7月27日～2023年3月31日

## 配当計画

4月26日に公表したとおり、2022年度の配当予想は、6円増配の98円を計画



**OMRON**

# 参考資料



# 連結貸借対照表

(億円)

	2022年3月末	2022年6月末	前年度末差
流動資産	4,829	4,727	△103
(現金及び現金同等物)	(1,555)	(1,284)	(△271)
(たな卸資産)	(1,419)	(1,638)	(+218)
有形固定資産	1,221	1,239	+18
投資その他の資産	3,256	3,370	+114
資産の部合計	9,306	9,336	+29
流動負債	2,117	1,769	△347
固定負債	510	484	△26
負債の部合計	2,627	2,254	△373
株主資本	6,652	7,057	+405
非支配持分	27	25	△2
純資産の部合計	6,680	7,082	+402
負債及び純資産合計	9,306	9,336	+29
株主資本比率	71.5%	75.6%	+4.1P

# 連結キャッシュ・フロー計算書

(億円)

	2021年度 1Q実績	2022年度 1Q実績	前年同期差
営業活動によるキャッシュ・フロー (営業CF)	222	△14	△236
投資活動によるキャッシュ・フロー (投資CF)	△49	△65	△17
フリー・キャッシュ・フロー (FCF)	174	△79	△253
財務活動によるキャッシュ・フロー (財務CF)	△88	△289	△201
期末の現金残高	2,661	1,284	△1,377
設備投資	48	60	+12
減価償却費	57	62	+4

# 為替前提と為替感応度

1円変動（人民元は0.1円）による影響額（通期）

	2022年度 為替前提	売上高	営業利益
米ドル	121円	約18億円	約1億円
ユーロ	133円	約9億円	約4億円
人民元	19.0円	約10億円	約3億円

※ 新興国通貨などが、主要通貨に想定通り連動しなかった場合、感応度に影響を与えます。

# 主要ESGインデックスへの組み入れ (2022年7月現在)

## <オムロンが選定されているESGインデックス >

- ✓ DJSI – World **5年連続選定**
- ✓ FTSE4Good Index Series **7年連続選定**
- ✓ MSCI ESG Leaders Indexes **8年連続選定**
- ✓ MSCI SRI Indexes **6年連続選定**
- ✓ STOXX Global ESG Leaders Indices **6年連続選定**
- ✓ FTSE Blossom Japan Index **6年連続選定**
- ✓ FTSE Blossom Japan Sector Relative Index **初選定**
- ✓ MSCI ジャパンESGセレクト・リーダーズ指数 **6年連続選定**
- ✓ MSCI 日本株 女性活躍指数 **6年連続選定**
- ✓ S&P/JPXカーボン・エフィシエント指数 **4年連続選定**

\*オムロンでは、CDP気候変動・水に関する調査を含むESG評価機関による調査など、多くの外部からの調査に協力し、情報を開示しています。  
2021年度評価：気候変動「A-」、水セキュリティ「A-」

Member of  
**Dow Jones  
Sustainability Indices**  
Powered by the S&P Global CSA



FTSE4Good



FTSE Blossom  
Japan



FTSE Blossom  
Japan Sector  
Relative Index

2022 CONSTITUENT MSCI JAPAN  
ESG SELECT LEADERS INDEX

2022 CONSTITUENT MSCI JAPAN  
EMPOWERING WOMEN INDEX (WIN)



THE INCLUSION OF OMRON CORPORATION IN ANY MSCI INDEX, AND THE USE OF MSCI LOGOS, TRADEMARKS, SERVICE MARKS OR INDEX NAMES HEREIN, DO NOT CONSTITUTE A SPONSORSHIP, ENDORSEMENT OR PROMOTION OF OMRON CORPORATION BY MSCI OR ANY OF ITS AFFILIATES. THE MSCI INDICES ARE THE EXCLUSIVE PROPERTY OF MSCI. MSCI AND THE MSCI INDEX NAMES AND LOGOS ARE TRADEMARKS OR SERVICE MARKS OF MSCI OR ITS AFFILIATES.

# 社外からの評価(2022年7月現在)

## <ESG関連表彰・銘柄選定>

### S&Pグローバル社選定

- ✓ S&P サステナビリティアワード シルバークラス

### EcoVadis社選定

- ✓ サステナビリティ調査 ゴールド

### 一般社団法人 日本取締役協会 主催

- ✓ コーポレート・ガバナンス・オブ・ザ・イヤー2018 経済産業大臣賞 **2018年度受賞**

### 環境省 主催

- ✓ 平成30年度 地球温暖化防止活動大臣表彰 「対策活動実践・普及部門」を受賞 **2018年度受賞**

### 日本経済新聞社 主催

- ✓ 日経SDGs経営大賞 「SDGs戦略・経済価値賞」を受賞 **2019年12月受賞**

### 経済産業省・東京証券取引所 選定

- ✓ 企業価値向上表彰 大賞 **2014年度受賞**
- ✓ なでしこ銘柄 **2017年度より5年連続選定**
- ✓ 健康経営銘柄 **2018年度より4年連続選定**
- ✓ 健康経営優良法人～ホワイト500～ **2016年度より6年連続選定**

### 日本経済新聞社 選定

- ✓ 日経225 **2019年3月 初選定**

Sustainability Award  
Silver Class 2022

S&P Global



Corporate Governance  
of The Year



健康経営銘柄 2022

Health and Productivity

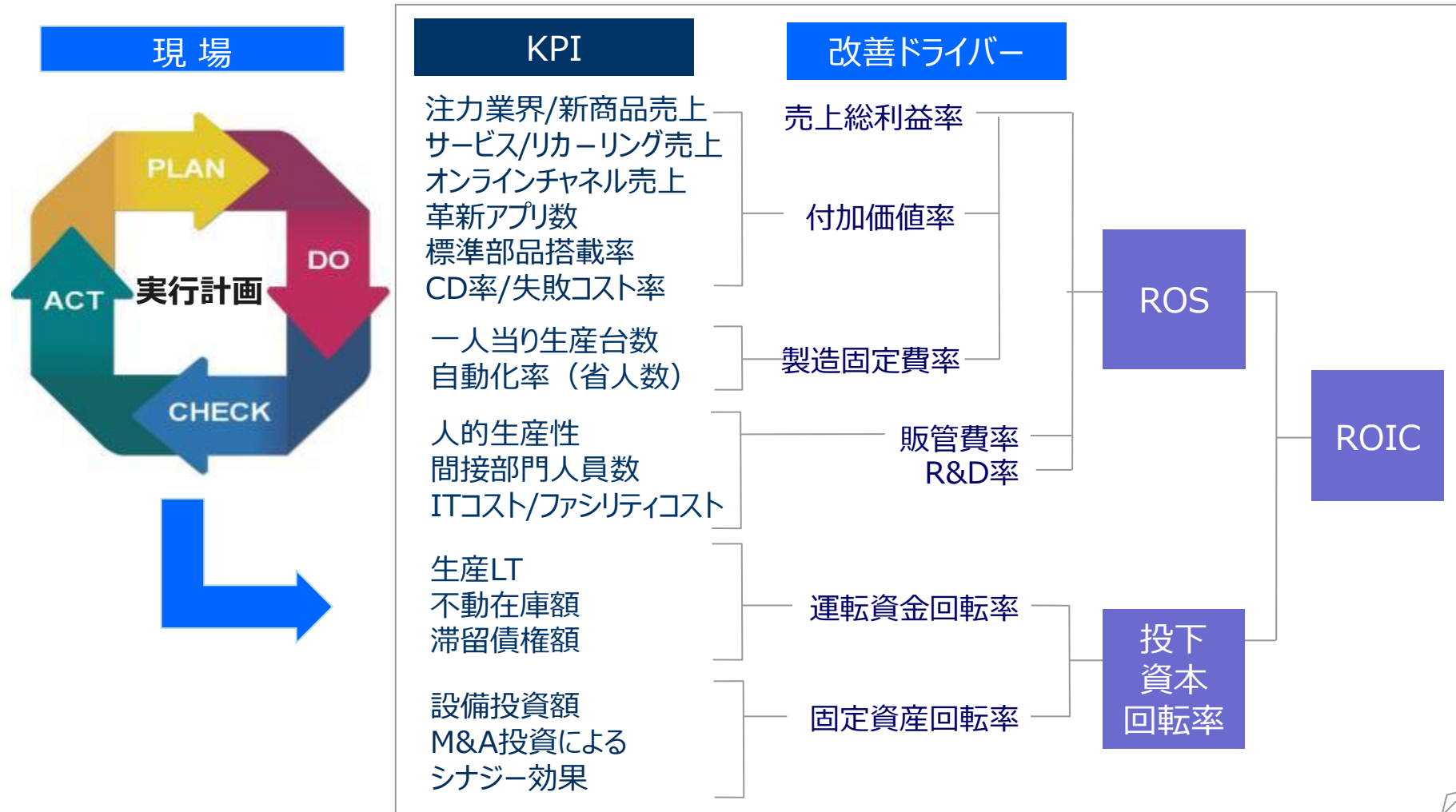


健康経営優良法人 2022

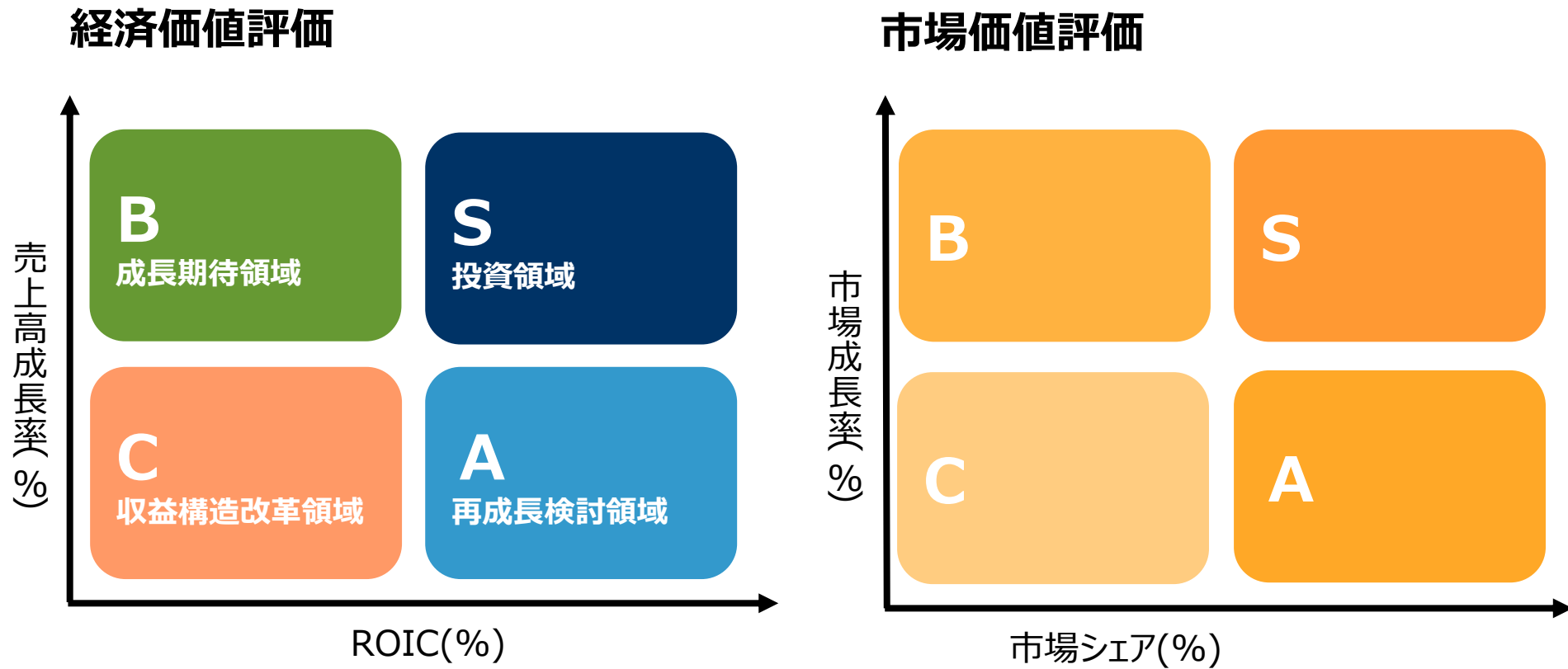
Health and productivity

ホワイト500

# ROIC逆ツリー展開 (2.0)



# 事業ポートフォリオマネジメント



# ROIC計算式

<連結貸借対照表>

科目	年 月 末
資産の部	
流動資産	
…	
…	
有形固定資産	
…	
投資その他の資産	
…	
負債の部	
流動負債	
短期債務	
…	
…	
…	
純資産の部	
株主資本	
…	
…	
…	
純資産の部合計	
負債及び純資産合計	

$$\text{ROIC} = \frac{\text{当社株主に帰属する当期純利益}}{\text{投下資本}}$$

$$\text{投下資本} = \text{純資産} + \text{有利子負債}$$

※投下資本は、前年度末実績および当年度の各四半期毎の実績または見通しを平均して算出。

**2021～2024年度の想定資本コスト：5.5%**



## <注意事項>

1. 当社の連結決算は米国会計基準を採用しています。
2. 業績予想などは、当社が現時点で入手可能な情報と、合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績はさまざまなリスクや不確定な要素などの要因により、異なる可能性があります。

## < I R に関するお問い合わせ >

**オムロン株式会社**

**グローバルインベスター & ブランドコミュニケーション本部 IR部**

E-mail : [omron-ir@omron.com](mailto:omron-ir@omron.com)

Webサイト : [www.omron.com/jp/ja/](http://www.omron.com/jp/ja/)